

平成31年度 事務事業評価シート

[平成30年度事後評価]

整理番号	283		
部 局 名	環境部	所 属 名	環境政策課
事務事業名	01190 環境人育成事業	所 属 長	須佐美 雅幸
		記 入 者	上田 善彦

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	環境基本法、環境教育等促進法
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします	関連する個別計画	大津市環境基本計画 大津環境人を育む行動計画
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	政策	評価対象事業	環境人育成事業費	
事業の概要	環境問題に関心を持ち豊かで快適な環境を創造していく人を育成するために、子どもの自然体験学習を充実させる。子どもと親・家族が豊かな本市の自然に学び、自然を楽しむ体験型環境教育を展開し環境にやさしく生きる力を持った「こども環境人」を育むことを目的として次の事業を実施する。 ・「自然家族」事業 ・「大津こども環境探偵団」事業 ・「指導者研修」事業				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input checked="" type="checkbox"/> その他（実行委員会の協力）				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	人間の社会活動と環境の関わりにおいて、市民一人ひとりが深い理解と認識を持ち、各自が環境に配慮した生活・行動ができる「環境人」の育成を目的として
対象 (何又は誰を)	自然家族事業は子育て親子、こども環境探偵団事業は小学3年生～中学3年生、指導者研修事業は子育て指導者層を対象に
手段 (どのようなやり方で)	里、川、琵琶湖、山等のフィールドを利用した自然体験プログラムの実施（自然家族事業）、環境学習活動（大津こども環境探偵団事業）、及び研修支援（指導者研修事業）により
成果 (どのような状態にするのか)	「環境人」が増えた状態をつくる ※環境人とは、高い環境意識を有して積極的に環境行動を実践する人

< 3. 経費 > DO

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和2年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		2,830	2,372	1,312	1,289	1,289	
人件費 B		16,926	20,280	12,517	11,697	11,697	
事業費合計 A+B		19,756	22,652	13,829	12,986	12,986	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	3,120	2,147	1,000	1,000	1,000	琵琶湖総合保全交付金
	一般財源	16,636	20,505	12,829	11,986	11,986	
職員数(人)		2.32	2.55	2.10	2.00	2.00	
職員数の内訳	正規	2.02	2.45	1.35	1.25	1.25	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.30	0.10	0.75	0.75	0.75	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
活動指標	1	自然家族事業開催回数	回	目標	11	11	4	4	4	
				実績	11	10	4	-	-	
	各年度の自然家族事業の開催回数、活動実績数									
	2	大津こども環境探偵団環境学習回数	回数	目標	6	6	6	6	6	
実績				8	6	3	-	-		
各年度の大津こども環境探偵団環境学習事業の回数、活動実績数										
成果指標	1	自然家族事業参加者数	人	目標	650	650	400	400	400	
				実績	442	460	229	-	-	
	各年度における自然家族事業の参加者数									
	2	大津こども環境探偵団卒団生数	人	目標	1,780	1,840	1,930	1,990	2,050	
実績				1,818	1,877	1,930	-	-		
各年度末の大津こども環境探偵団卒団生数（第1期からの総数）										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	自然体験活動を望む声が多くなっており、本市の豊かな自然を生かした自然体験型環境学習により環境人を育むための機会の提供が求められている。	
これまでの見直しや改善等の経過	「大津環境人を育む行動計画」の策定（平成29年度）を契機に、参加者の数によって実施回数を調整するなど事業内容の見直しを行った。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	環境教育等促進法において地方公共団体の責務として、その地方公共団体の区域の自然的条件に応じた施策の策定及び実施に努めるよう定められていることから、環境人育成事業を実施することは妥当である。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	ほとんどの参加者が、自然体験活動を通じて自然の面白さ、不思議さ、大切さ、生き物の命の尊さを実感して、今後も自然体験活動を続けていきたいと考えているという結果が出ている。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	家族、子ども、指導者といった対象者を明確にし、テーマを絞った内容とすることで、効率的に事業を実施している。
総合評価	<input type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	本市の豊かな自然を利用することにより、身近な場所で自然体験型の環境学習プログラムを数多く行っており、各参加者が環境を意識した活動に関心を持つようになった。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	<p>平成30年度には、参加者数などの動向を見ながら事業の見直しを行い、今年度からは自然家族事業を外部委託するなど、事務の効率化を図ってきた。今後については、受託者の事業結果報告や提案を受けてフィードバックさせることにより、また参加者のニーズを的確に把握することにより、さらなる効率化を目指しつつ事業を進めていく。</p> <p>今後も引き続き事業結果の分析や参加者の意向の把握に努め、事業の精査を行うことで効率化を図りながら進めていく。</p>

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標1	147.05 %	141.30 %	174.67 %
	指標2	102.13 %	102.01 %	100.00 %
成果増減率	指標1	- %	-4.07 %	+50.21 %
	指標2	- %	+3.24 %	+2.82 %
活動単位コスト	指標1	1,796 千円	2,265 千円	3,457 千円
	指標2	2,469 千円	3,775 千円	4,609 千円
成果単位コスト	指標1	44 千円	49 千円	60 千円
	指標2	10 千円	12 千円	7 千円
コスト増減率		- %	+0.44 %	-31.62 %

平成31年度 事務事業評価シート

[平成30年度事後評価]

整理番号	369				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	葛川少年自然の家	所 属 長	古谷 知子
事務事業名	01436	ふるさと体験学習事業	記 入 者	辻 和江	

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします	関連する個別計画	
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称
	01437	森林環境学習「やまのこ」事業	2460	葛川少年自然の家

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	ふるさと体験学習事業費	

事業の概要
 自然体験学習と集団宿泊体験を通して、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深めるとともに、仲間づくりと集団生活の在り方を学び、心豊かでたくましい人間性の育成を目的とした活動を行っている。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	21世紀に生きる心豊かでたくましい人間の育成を図るため、
対象 (何又は誰を)	中学校1年生を対象に(命の学習・キャンプファイアは、市内小学校4年生も対象)
手段 (どのようなやり方で)	少年自然の家やその周辺地域を利用し、集団宿泊体験とさまざまな自然体験を実施し、
成果 (どのような状態にするのか)	安全に生活する中で、自然の美しさや厳しさを感じとり、集団生活のあり方や仲間と協力するすばらしさを学ぶ。また自然環境の中で五感を使い、感性を養いつつ、的確な判断力、課題解決の実践力を培う。

< 3. 経費 > DO

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和2年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		10,014	9,464	9,562	9,052	9,052	
人件費 B		8,399	8,503	8,505	8,505	8,505	
事業費合計 A+B		18,413	17,967	18,067	17,557	17,557	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	18,413	17,967	18,067	17,557	17,557	
職員数(人)		1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	
職員数の内訳	正規	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	
	嘱託	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	臨時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
活動指標	1	ふるさと体験学習参加者数	人	目標	3,062	2,905	2,810	2,987	3,192	
				実績	3,015	2,876	2,763	-	-	
	天津市立中学1年生実数									
	2				目標					
			実績							
成果指標	1	ふるさと体験学習のねらいの達成度	%	目標	90	90	90	90	90	
				実績	93.1	91.6	94.4	-	-	
	各校実施後の4段階自己評価の割合を100点満点に換算したもの									
	2				目標					
			実績							

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	近年、子どもたちの自然体験が急激に少なくなり、またインターネット等の仮想社会への依存が高まっている状況の中、自然体験は豊かな感性を培い、賢くたくましい心を育てるという重要な役目を担っている。		
これまでの見直しや改善等の経過	昭和62年度より、学校教育の一環として、教育課程に位置づけて、中学校1年生を対象に実施している。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	子どもたちが自然体験を含むさまざまな実体験や機会が減少する中、次世代を担う大津の子どもたちが、心豊かでたくましい人間性を身につけるため、市が意図的・計画的に事業を実施していく必要がある。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	昭和62年より「ふるさと体験学習」として、豊かな体験活動と賢くたくましい心を育む事業を教育課程に位置づけて行っており、豊かな感性を培い、賢くたくましい心を育む手立てとして有効であると考え。特に、中学校1年生は入学して間もないことから、仲間作りや自然に親しむ活動の場として、学校全体で創意工夫しながら展開している。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	自然体験学習や集団宿泊体験を実施することで、命の大切さや仲間と協力することの大切さ、手段生活の在り方を限られた時間の中で学ぶことができている。特に、小学校4年生においては、「やまのこ事業」と連携することで、森林の働きを学び、森に親しむ活動を展開することができている。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	自然体験学習や集団宿泊体験学習を通して、心豊かでたくましい人間性を身につけ、仲間と協力することの大切さ、手段生活の在り方を学ぶことができおり、「青少年が健全に育つまちづくり」に貢献している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了() <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	<p>今後は、各中学校の教育課程に位置づけ、「1泊2日」か「2泊3日」の日数選択制とし、内容を精選して実施。改善アンケートを実施し、一定の評価を得ている。その結果を反映させつつ、宿泊体験や野外活動を通して仲間作り、集団行動、問題解決能力を育てる場として大津市の教育を今後も支え、継続していく。</p> <p>大津市の豊かな自然の中で、宿泊体験や野外活動を通して良好な人間関係の構築や主体的に行動する態度の育成を学ぶ体験は、他では得がたい体験である。今後は、引き続き、学校、保護者、生徒の思いを改善アンケートで把握し、内容の充実に取り組むと共に、各学校が主体的な活動の取り組みとして展開する必要がある。</p>

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標1	103.44 %	101.77 %	104.88 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	-1.61 %	+3.05 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	6 千円	6 千円	6 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	197 千円	196 千円	191 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	-0.82 %	-2.42 %

平成31年度 事務事業評価シート

[平成30年度事後評価]

整理番号	370	
部 局 名	教育委員会	所 属 名
事務事業名	01437 森林環境学習「やまのこ」事業	所 属 長
		記 入 者
		葛川少年自然の家
		高橋 将人

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り	関連する個別計画	
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします		
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
	01436	ふるさと体験学習事業		2460	葛川少年自然の家
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	森林環境学習「やまのこ」事業費	
事業の概要	森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに人と豊かに関わる力をはぐくむため、学校教育の一環として4年生を対象に葛川少年自然の家とその周辺森林を使った体験型の学習を行う。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに人と豊かに関わる力を育むために
対象 (何又は誰を)	天津市内全小学校4年生37校及び葛川少年自然の家での事業実施を希望する県内の4年生を対象に、
手段 (どのようなやり方で)	自然の家やその周辺森林を利用し、集団宿泊体験(1泊2日)とさまざまな森林環境学習を実施し、
成果 (どのような状態にするのか)	森林に興味を持ち、その働きの重要性や危機回避する力を身につけ、環境を守ろうという意欲をもつ。優しさや思いやり、協力し合う心の大切さに気づく。

＜3. 経費＞ DO

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	備 考
		決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	見込額(千円)	
直接経費 A		13,656	13,142	12,543	12,774	12,874	
人件費 B		14,078	14,246	14,310	14,310	14,310	
事業費合計 A+B		27,734	27,388	26,853	27,084	27,184	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	17,704	17,083	16,807	14,738	14,638	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
一般財源		10,030	10,305	10,046	12,346	12,546	
職員数(人)		3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	
職員数の内訳	正規	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	
	嘱託	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	臨時	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
活動指標	1	森林環境学習「やまのこ」事業受入者数	人	目標	3,420	3,169	3,238	3,220	3,167
				実績	3,411	3,126	3,204	-	-
平成31年度小学4年生実数より算出									
成果指標	1	事業の「取り組み」についての達成度	%	目標	90	90	90	90	90
				実績	95.9	91.2	92.6	-	-
「取り組み」の4段階事後評価(学校・指導員)を100点に換算									
成果指標	2			目標					
				実績					

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	学習指導要領の中の「豊かな心と生きる力を育む」ためにも、主催研修事業としての森林環境学習「やまのこ」事業の取り組みへの期待は大きい。		
これまでの見直しや改善等の経過	条例に基づき、平成19年度より当事業が学校教育の一環として県内小学校4年生を対象に施行された。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	当施設は森林に囲まれた葛川地区に立地し、森林環境学習「やまのこ」事業を行った39校は、森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに、人と豊かに関わることができた。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	参加児童が、植物探しゲームや、間伐材を利用したクラフトなどの体験活動を通して、森林環境保全を行うことで水環境も守れるなど関連していることに気づくことができた。また、集団宿泊体験から、友だちのよさに気づき、仲間意識を高めることができた。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	森林環境学習「やまのこ」事業に参加した子どもたちは森林に興味を持ち、その役割を理解するとともに、仲間と協力し生活していく大切さに気づかせることができた。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	集団宿泊体験は、仲間とともに自主的に行動するという社会性の育成に貢献することができた。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了() <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	環境先進県を標榜する滋賀県が、森林と人とが豊かに関わる力を育み環境に関する理解を深めるため、学校教育の一環として小学4年生を対象に行う事業であり、大津市が掲げている環境人の育成にも合致している。野外活動や集団宿泊体験を通じて児童が成長する場としても一定の評価を得ている。安全性の確保を大前提として事業を継続していく。
部局長コメント	葛川の豊かな自然を生かして、森を教材とし、森を守るための取り組みについて学んだり、間伐材を利用した活動をしたりすることは、森林環境学習の推進や大津市の環境人育成につながっている。今後も人が豊かに関わる力を育み、持続可能な社会の形成に積極的に寄与する次世代の育成に努める事業を推進する。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標1	106.55 %	101.33 %	102.88 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	-4.90 %	+1.53 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	8 千円	8 千円	8 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	289 千円	300 千円	289 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	+3.84 %	-3.43 %

平成31年度 事務事業評価シート

[平成30年度事後評価]

整理番号	371				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	葛川少年自然の家	所 属 長	古谷 知子
事務事業名	01438 研修事業			記 入 者	河野 匡志

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り	関連する個別計画	
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします		
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会 計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	自然の家研修事業費	

事業の概要
 子どもたちの学校外体験活動の充実を図る社会教育施設として、自然の家の役割が一層増している。そこで研修事業の自然体験学習に子どもたちの五感に働きかける活動を多く取り入れ、心豊かな人間性の育成を図ることを目標に掲げ主催研修事業を実施する。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	自然体験や野外活動を通して青少年の健全育成を図るとともに、地域リーダーやボランティア等の青少年の指導者の育成を図るために。
対象 (何又は誰を)	天津市内の小学生、中学生、高校生、大学生及び小中学生を含む家族、天津市民を対象に。
手段 (どのようなやり方で)	葛川の豊かな自然環境を活かし、宿泊研修や日帰り研修の中で、さまざまな野外活動プログラムや自然体験活動を実施し、
成果 (どのような状態にするのか)	自然の素晴らしさや偉大さを感じ、仲間と協力することの大切さや家族のふれあいを深めることができる。また、地域ボランティアやリーダー等の指導者が育つ。

＜3. 経費＞ DO

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	備 考
		決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	見込額(千円)	
直接経費 A		3,095	3,120	1,006	2,206	2,151	
人件費 B		5,159	5,223	4,405	4,405	4,405	
事業費合計 A+B		8,254	8,343	5,411	6,611	6,556	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	1,885	1,833	1,499	1,307	1,307	
	一般財源	6,369	6,510	3,912	5,304	5,249	
職員数(人)		0.70	0.70	0.60	0.60	0.60	
職員数の内訳	正規	0.60	0.60	0.50	0.50	0.50	
	嘱託	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	臨時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
活動指標	1	重点研修事業応募者数	人	目標	150	150	150	150	150	
		実績		246	212	168	-	-		
	冒険塾・ちっちゃい秋探険隊・北風わんぱくキャンプの応募者数									
	2	市民対象事業応募者数	人	目標	300	300	300	300	300	
実績		556		503	379	-	-			
ボランティア養成・わくわくホリデー・ファミリーキャンプの応募者数										
成果指標	1	重点研修事業実施後のアンケートによる満足度	%	目標	90	90	90	90	90	
		実績		98	98	95.7	-	-		
	事後アンケート5段階評価を100点満点に換算したもの									
	2	市民対象事業実施後のアンケートによる満足度	%	目標	90	90	90	90	90	
実績		97.5		98	0	-	-			
事後アンケート5段階評価の100点満点に換算したもの										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	自然を体験する場所や機会が減少している中、野外活動や宿泊体験活動は、自主性を伸ばし感性をはぐくみ、たくましく生きる力を養っていくために欠かせない意義を持っている。	
これまでの見直しや改善等の経過	コミュニケーション力の育成のため、相談し協力して解決していくプログラムを推進した。またボランティアリーダー育成のための研修を充実させた。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	野外活動、日帰り研修、宿泊体験を教育の視点で、計画的・継続的に実施するため、市が主体となりプログラムを充実させた。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	自然の素晴らしさ雄大さ、野外活動でこそ得られる実体験と協力することの大切さを学ぶ大切な機会となっている。また家族の絆を深めたり、多くの市民に野外活動の楽しさを広げることにつながっている。平成30年度は自然災害や天候により、中止になった事業が多かったが、社会教育の推進から自然の家での事業は有効である。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	申し込み人数は募集人数をはるかに上回っており、計画された予算内で市民が研修を受ける機会を最大限に提供できている。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	自然体験や集団宿泊研修を通して青少年の健全育成に貢献している。家族愛を深めるキャンプは、親子の絆や信頼の醸成に貢献している。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	自然体験や宿泊体験の機会が減少している中、葛川の自然を活かした仲間作りのプログラムを充実させ事業を推進していくとともに、指導者の育成も図って生きたい。またプログラムの安全性を十分に考慮した計画を立て、市民が安心して楽しく参加できる活動になるよう、さらに、内容を充実させていく必要がある。
部局長コメント	葛川少年自然の家での自然体験活動を通して、豊かな心や健やかな体の育成や人とかかわる協働の喜びの体得など、社会的に自立した社会人として、明るくたくましく生きていく態度や危機管理能力を育成すると共に、市民に健全なレクリエーションと憩いの場を提供できるよう内容を一層充実させて事業を推進していく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標1	108.88 %	108.88 %	106.33 %
	指標2	108.33 %	108.88 %	0.00 %
成果増減率	指標1	- %	±0.00 %	-2.34 %
	指標2	- %	+0.51 %	-100.00 %
活動単位コスト	指標1	33 千円	39 千円	32 千円
	指標2	14 千円	16 千円	14 千円
成果単位コスト	指標1	84 千円	85 千円	56 千円
	指標2	84 千円	85 千円	0 千円
コスト増減率		- %	+0.81 %	-16.79 %

平成31年度 事務事業評価シート

[平成30年度事後評価]

整理番号	372		
部局名	教育委員会	所属名	葛川少年自然の家
事務事業名	02072 少年自然の家施設改修事業	所属長	古谷知子
		記入者	松井和久

<1. 基本事項>

総合計画の位置付け	区分	コード	名称	根拠法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人々が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします	関連する個別計画	葛川地区振興整備計画
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
	00885	少年自然の家管理運営事業		2460	葛川少年自然の家
	00886	環境にやさしい施設管理事業		2460	葛川少年自然の家
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	特定	評価対象事業	少年自然の家施設改修事業費	
事業の概要	当施設は旅館業法、消防法、建築基準法等に基づき安全で安心できる施設の管理を行っている。その中で老朽化等により施設改修の必要な部分は順次改修を行うこととし、また、利用の効率を高めるために施設の充実も図っている。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

<2. 事業分析> PLAN

目的 (何のために)	集団宿泊施設として、安全で安心な施設の維持管理を図るため
対象 (何又は誰を)	集団宿泊による体験学習を通して明るくたくましい人間形成に努める利用者(団体)を対象に
手段 (どのようなやり方で)	老朽化等による施設の状況を法定点検及び日常の点検により把握し、施設の改修工事を実施することにより
成果 (どのような状態にするのか)	施設利用者に対し、安全と安心、満足感を与える利用環境を整える。

<3. 経費> DO

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和2年度 見込額(千円)	備考
直接経費 A		4,679	7,296	1,577	16,996	2,710	
人件費 B		5,159	5,223	4,405	4,405	4,405	
事業費合計 A+B		9,838	12,519	5,982	21,401	7,115	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	9,838	12,519	5,982	21,401	7,115	
職員数(人)		0.70	0.70	0.60	0.60	0.60	
職員数の内訳	正規	0.60	0.60	0.50	0.50	0.50	
	嘱託	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	臨時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

<4. 指標> DO

		指標名	単位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
活動指標	1	団体への貸出稼働泊数	泊	目標	146	142	148	148	148
				実績	110	100	103	-	-
目標は、団体宿泊可能日数かける0.8、実績は、団体が宿泊した日数									
成果指標	1	一般利用団体の申込みでのリピーター数	団体	目標	30	30	30	30	30
				実績	24	23	23	-	-
直近2年間における申し込みに対する数									
成果指標	2			目標					
				実績					

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	施設の充実や不良箇所の改善（改修）が求められている。		
これまでの見直しや改善等の経過	優先順位を考え、施設の充実・改善を図っている。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	施設の充実及び不良箇所の改善により、施設の安全と快適な施設環境を整えることができる。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	利用団体（利用者）が安全で安心して施設を利用することができる。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	施設の充実・改善により、良好で効率的な施設環境を与えることができる。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要	<input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	施設の改修・整備により安全で安心な施設環境を与えることができ、青少年が健全で育つまちづくりに貢献している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了() <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	自然の中で集団宿泊体験をする施設として、今後も利用者（団体）に対して安心で安全な施設環境を整えていく。
部局長コメント	本所は、多くの市民に求められている施設であることから、安全・安心な施設として、利用者の要望に応えられる体験活動ができるよう今後も関係機関と協議し、改修計画を立案し、継続的な改修工事を進めていく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標1	80.00 %	76.66 %	76.66 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	-4.16 %	±0.00 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	89 千円	125 千円	58 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	409 千円	544 千円	260 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	+32.78 %	-52.21 %

平成31年度 事務事業評価シート

[平成30年度事後評価]

整理番号	373		
部局名	教育委員会	所属名	葛川少年自然の家
事務事業名	00885 少年自然の家管理運営事業	所属長	古谷知子
		記入者	松井和久

<1. 基本事項>

総合計画の位置付け	区分	コード	名称	根拠法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人々が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします	関連する個別計画	葛川地区振興整備計画
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	99	その他			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称
	00886	環境にやさしい施設管理事業	2460	葛川少年自然の家
	02072	少年自然の家施設改修事業	2460	葛川少年自然の家

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	少年自然の家管理運営事業	

事業の概要
当施設は、昭和62年開設以降32年が経過し、平成30年度末、延べ約81万6千人の利用者があり、葛川の豊かな自然環境の中での集団宿泊生活を通じて、子どもたちに自然の偉大さや神秘さを体験させ、豊かな情操を育むとともに明るくたくましい生き方を学ばせ、よりよい人間関係を育てることを目的として施設の管理運営を行っている。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

<2. 事業分析> PLAN

目的 (何のために)	「利用者によさしく 環境によさしい」集団宿泊体験施設として、適正な施設管理運営を行なうため
対象 (何又は誰を)	集団宿泊による体験学習を通して明るくたくましい人間形成に努める利用者(団体)を対象に
手段 (どのようなやり方で)	設備維持管理のための保守点検、清掃等美化業務、その他管理運営のための業務を行うとともに施設、設備の維持補修を行い
成果 (どのような状態にするのか)	当施設の利用者に安心、安全な施設環境を提供する。

<3. 経費> DO

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和2年度 見込額(千円)	備考
直接経費 A		48,232	48,937	46,903	47,179	45,916	
人件費 B		12,536	12,692	14,340	14,340	14,340	
事業費合計 A+B		60,768	61,629	61,243	61,519	60,256	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	21,717	19,830	18,452	21,805	21,805	
	一般財源	39,051	41,799	42,791	39,714	38,451	
職員数(人)		1.80	1.80	2.00	2.00	2.00	
職員数の内訳	正規	1.40	1.40	1.60	1.60	1.60	
	嘱託	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	
	臨時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

<4. 指標> DO

		指標名	単位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
活動指標	1	団体への貸出稼働泊数	泊	目標	146	142	148	148	148	
				実績	110	100	103	-	-	
	目標は、団体宿泊可能日数×0.8、実績は、団体が宿泊した日数									
	2				目標					
				実績						
成果指標	1	利用団体数	団体	目標	123	123	123	123	123	
				実績	108	101	95	-	-	
	目標、実績は利用した団体数									
	2	利用者の宿泊人数(延べ人数)	人	目標	11,680	11,360	12,800	12,800	12,800	
実績				12,688	11,527	10,498	-	-		
目標は、稼働日数×80人/泊、実績は利用団体の宿泊者延べ人数										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	利用者（利用団体）が安全で安心して利用できる集団宿泊体験施設として、適正な管理運営が求められている。	
これまでの見直しや改善等の経過	今後も安全で安心して適正な施設管理運営を行い、施設・設備の維持補修を的確に実施し快適な施設環境を提供する。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="checked" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	適正な管理運営とともに、適切な維持管理を行うことにより、利用者に対して安心、安全な施設運営が図れている。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="checked" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	自然の中で集団宿泊体験ができる施設として、利用者が安心して利用している。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="checked" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	一般団体も利用できる施設となっており、効率的な施設運営が図れている。
総合評価	<input checked="checked" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="checked" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	安心・安全で適正な施設管理運営が出来ており、青少年が健全に育つまちづくりに貢献している。
---------	---	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="checked" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	利用者（利用団体）にとって安心・安全で満足感を与えることができる施設となるよう、今後も維持管理を含めた適正な施設管理運営を行い、事務の効率化・コスト削減に取り組んでいく。
部局長コメント	より一層、事務の効率化・コストの軽減に努めると共に、施設利用の推進を図り、利用者が活動しやすく、満足感を得ることができるよう、人に優しく安全で安心な活動環境に向けて運営・管理に努める。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標1 87.80 %	82.11 %	77.23 %
	指標2 108.63 %	101.47 %	82.01 %
成果増減率	指標1 - %	-6.48 %	-5.94 %
	指標2 - %	-9.15 %	-8.92 %
活動単位コスト	指標1 552 千円	616 千円	594 千円
	指標2 0 千円	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標1 562 千円	610 千円	644 千円
	指標2 4 千円	5 千円	5 千円
コスト増減率	- %	+10.03 %	+7.37 %